

2024年1月実績概要（メモ）

（2024. 2. 22）

エチレン生産が前年並みとなるも、誘導品では、樹脂類の減産に比し、化成品、合成ゴムの増産へと進む。

1. 生産動向

イ) エチレン 477,000トン

前月比 +0.1% (+ 500トン)

前年同月比 ▲1.1% (▲5,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	—	—
能力増減	—	+ 0.3%
稼働率変動	+ 0.1%	▲ 1.4%
生産増減率	+ 0.1%	▲ 1.1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月80.3%* → 当月80.3% ← 前年同月81.2%

定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、稼働率要因や定修規模差から、HDPE、PS、塩ビ樹脂、SBRほか10品目がマイナス。PP、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの7品目はプラスとなった。

前年比は、主に稼働率要因から、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BRなど9品目がプラス。HDPE、PS、キシレンなどの8品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、定修規模差や稼働率要因からLDPE、PPはプラス。HDPE、PSは主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PSは稼働率要因等からマイナス。PPのみはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月に続き、消費マインドは改善の方向性が見られている。国内の生産活動は、12月時点では増加がみられたが、1月以降の予測では、低下見通しが出されるとともにマインドもやや弱気の面が見られつつある。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、年始休暇の影響もあり、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

前年比は、前月に一時的な増加が見られたが、当月はLDPE、PP、PSでマイナス。HDPEのみはプラスとなった。出荷分野別では、LDPE、HDPE、PPの3樹脂はフィルム分野の減少が継続している。PSは前月に包装分野がプラスとなるも、当月は一転してマイナスとなった。包材以外の分野では、LDPEのラミネート分野、HDPEのパイプ分野、中空成形分野、射出成形分野などで増加が見られるが、これ以外の出荷分野では、ほとんどが前年を下回ることとなった。

ハ) 輸出

需要面での弱さが続く中、アジア域内への供給は、紅海やパナマ運河の回避の動きもあり、輸送コストの上昇が見られている。当月は、前月比はLDPE、PSはプラス。HDPE、PPはマイナスとなった。前年比では、LDPE、HDPE、PPの3樹脂がプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PSともに上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともやや高め水準になりつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LDPE	+28,400	3.5	3.6
HDPE	+7,600	3.3	3.7
P P	+40,500	2.9	3.3
P S	+100	1.5	1.8

前月からの修正を*で付記

以上